

# 1. 評価結果概要表

作成日 2008年3月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3690300011
法人名	社会福祉法人 小松島敬和会
事業所名	グループホーム ひかり
所在地	徳島県小松島市坂野町字樫のべ35番地 (電話) 0885-38-1231

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年 2月 27日

## 【情報提供票より】(平成20年1月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 5月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	10 人 常勤7人, 非常勤3人, 常勤換算1階6.3人, 2階2.1人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費10,000円, その他実費	
敷 金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	12 名	男性	5 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.5 歳	最低	65 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	・藤野医院 ・福崎歯科医院
---------	---------------

徳島県 グループホームひかり 1

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは自然林の緑濃い能路寺山の麓に位置し、陽光と田園等、事前に恵まれた環境にある。法人経営の高齢者施設と隣接しており、理事長である医師が毎日来訪することで、利用者が安心できる体制である。また、一人ひとりのペースで過ごせるよう支援されている。職員は積極的に研修へ参加し、前向きな学びの姿勢がある。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の要改善点のうち、「契約書等への入居者の権利・義務の明文化」、「定期的なチームケア会議の開催」、「専門家の栄養指導」、「緊急時の応急処置訓練」、「刃物等注意物品の適切な保管・管理文書の作成」、「ヒヤリ・ハットの活用」については改善されている。「利用案内等への理念の明文化」については改善されていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義とねらいを運営者、管理者、職員で話し合いながら理解を深め、それらを活かした具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 平成19年度の運営推進会議は、3回開催されている。主なメンバーは、行政職員、民生委員、家族代表、利用者、職員により構成されている。ゲスト講師として管理栄養士や防災専門家による講演が行われている。討議内容は火災時の消火器の扱い方、消防署への通報の仕方、火災に対する心構え、感染症対策、外部評価結果報告のほかホームの行事予定となっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族等の意見は意見箱の設置や、家族のホーム来訪時に直接聞いている。ホームの様子は定期的な「ひかり」便りの発行により、行事予定や実施報告、職員紹介がされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の自治会・老人会等近隣との交流ができていない。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	安心と尊厳をうたった理念は玄関やスタッフルームに掲示され、日々のケアに活かされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を理解し、ミーティングや申し送り時に話し合い、日々のケアに関わる時にも確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は地域の行事等の情報収集ができておらず、交流も図られていない。	○	地域の行事等の情報収集に努め、積極的な交流に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義とねらいを運営者、管理者、職員で話し合いながら理解を深め、それらを活かした具体的な改善に取り組んでいる。しかし、前回評価での課題である「利用案内等への理念の明文化」については改善されていない。	○	理念は利用案内等へ盛り込むことが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は主に、利用者、家族代表、行政職員、民生委員、職員により構成されている。討議内容は、外部評価結果報告のほかホームの行事予定となっており、管理栄養士や防災専門家から感染症対策や災害対策などについての専門的な意見も聞いている。しかし、参加者からは取り組み状況等についての意見は出ていない。また、平成19年度は3回開催されているが、2ヶ月に1回の開催はされていない。	○	運営推進会議では、参加者間での意見交換が積極的に行われるよう配慮することが望まれる。また、2ヶ月に1回、開催されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上の報告や相談時には、市役所へ出向き情報交換をするなど、担当者とは連携を深くし、協力関係を築く取り組みをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に「ひかり」便りを発行し、家族の来訪時には写真やケース記録の確認をしてもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見は意見箱の設置や、ホーム来訪時に直接聞いている。また、重要事項説明書にホームの苦情担当者をはじめ、ホームの第三者委員、外部の機関等を明記し、入居時に説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に異動を少なくし、やむを得ず異動したときや新人採用時には研修や指導により入居者への負担がかからないような対応がなされている。家族への「ひかり」便りに職員紹介がされて来訪の少ない家族にも周知が図られている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内では研修計画に基づき、毎月定例で研修が行われている。所外研修受講者は所内職員に結果を報告し、情報の共有が図られている。また、併設施設や近隣施設で現場実習ができる体制がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連のグループホーム2事業所と相互評価事業を実施し、事業所ごとの取り組みを参考にしたり情報交換をすることにより、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族等に事業所を見学してもらい、納得したうえで利用開始できるようにしている。また、必要に応じて、利用開始前に自宅を訪問する等、馴染みの関係づくりに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の思いや根本にある不安、喜びなどを知ることに努め、暮らしの中で分かち合い、共に支え合える関係づくりを図っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、思いや意向の把握に努めている。また、言葉や表情からそれとなく確認したり、家族や関係者から情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日、申し送り、カンファレンスを行い、本人、家族の意向に添った支援ができるよう職員間で話し合い、それに基づいた介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況や利用者の変化に応じて、本人、家族を交えて、関係者らと話し合いのうえ見直しされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっている。また、本人、家族の状況に応じて通院など必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるように努力している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の来訪のほか、利用前からのかかりつけ医の受診には通院介助をしている。また専門病院の医療はかかりつけ医の紹介状により家族とともに対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族、かかりつけ医と話し合い、方針を共有するようになされている。入居時に看取り介護について同意書により確認がされている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する言葉かけや対応には細心の注意が払われている。事業者や職員の職務上の守秘義務は明文化されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の都合ではなく、利用者の意思や体調に配慮した日々の暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や収穫した野菜を利用した献立となっており、準備や片付けを手伝ってもらっている。職員も一緒に食事をし、言葉かけ等さりげないケアがされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能で、浴槽使用かシャワー使用か、入浴時間や温度など利用者の要望に添った支援がされている。入浴が嫌いな方には清拭をし、清潔が保持されている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や趣味を活かした野菜作り、食事の準備や片付け、洗濯物たたみなど体調や気分に合わせて手伝ってもらう支援がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	理美容院への外出や近隣の散歩などを本人の希望に添って支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常に利用者の様子がわかる職員配置により鍵をかけない支援がされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時のマニュアルを作成し、職員全員が把握している。運営推進会議での火災時の対応訓練には利用者や地域の方も参加して消火器の扱い方や消防署への連絡方法を学んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎食チェックし記録され、個人の体調や好みに応じた調理方法がとられている。水分摂取記録はあるが量の把握がされていない。	○	水分摂取の管理が必要な人には水分摂取時と一日の総摂取量を記録し、把握する等の工夫が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにある和室にはこたつが置かれ、ひな人形も飾られている。また、壁面には四季別に実施した行事の写真などが掲示されているとともに、飾り付けなど季節感が感じられる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を居室に配置し、居心地よく過ごせる空間となっている。		